

“把”構文における重畳形式

—『児女英雄伝』を中心に—

Reduplicative Compounds in the “Ba” Construction :

A study of “*Ernu Ying Xiong Zhuan*”

藤田 益子*

(if@isc.niigata-u.ac.jp)

The purpose of this paper is to examine the characteristics of the reduplicative compounds of the “Ba” construction used in the modern Chinese literature, “*Ernu Ying Xiong Zhuan*”.

1. “把”構文

これまでも“把”構文に関しては、さまざまな方面から多くの研究が行われてきた。特に、近年は、歴史的変化に関する研究が盛んに行われており、その発生の起源や、変遷経緯などには、上古先秦、秦代、魏晋南北朝、隋代、唐代、晚唐などいくつかの説がある。またそれぞれの処置義を広義と取るか、狭義ととるかでも見解の分かれるところである^①。

ここでは、近代以降、“把”構文がどのような経緯で現代の“把”構文の形に至ったのかを考察するため、近代漢語資料の中から、清末の北方方言で書かれた『児女英雄伝』を中心に“把”構文の分析を試みる。

2. 近代漢語資料における“把”構文の推移

近代漢語資料における「“把”字句」の出現状況と推移は次のとおりである。^②

文献 \ 句式	“把”字句	“将”字句	合計
王梵志诗		6	6
寒山子诗集	2	6	8
游仙窟		1	1
敦煌变文集	27	97	124
祖堂集	14	48	62
朱子语类	332	805	1137
京本通俗小说	44	46	90

*新潟大学国際センター 助教授

①蔣 (1994) (202-221頁)・張 (2001) (187-193頁)

②張 (2001) (201-202頁)

董解元西厢记	152	3	155
宣和遗事前集	20	47	67
大学直解	8	1	9
孝经直解	13	7	20
老乞大	4	16	20
朴通事	40	9	49
元曲选	1198	1929	3127
水浒传（见向熹 1958 年文）	1070	220	1290
水浒传（见刁晏斌文）	1255	281	1536
金瓶梅词话	394	42	436
醒世姻缘传	1631	639	2270
红楼梦	1021	886	1907
红楼梦 1-80 回（庚辰本）	600	665	1265
儒林外史	764	164	928

これらは、既存のデータを個別に収集した結果であるため、必ずしも「“把”字句」に対する概念、定義が完全に一致しているとは言いきれない。しかし、使用頻度という点では“将”との共時性や盛衰を見る上でも、総数の目安となる統計である。

3. 『兒女英雄伝』の“把”構文の使用頻度

『兒女英雄伝』における“把”構文は、広義に理解した場合、現在、確認出来ているもので1800例近く見られる。上記表の統計結果と、今回の『兒女英雄伝』の“把”構文の総用例数を見る限り、時代が近く同じ北方の白話文で書かれた『紅樓夢』と対比した場合、小説の総量に反比例して、『兒女英雄伝』中の“把”構文の使用頻度の高さを窺うことが出来る^③。

4. 現代漢語における“把”構文の条件

“把”構文に関して、処置式という用語を提示したのは王力で、『中国語法理論』（116頁）の中で述べているように、「形式上処置式というのは、普通の主要動詞句よりも制約が強く、単純に叙述句や目的語の前に“把”を加えることで、処置式が形成されるというものではない」としている。

更に、現代漢語における“把”構文の動詞を中心とした構造分析に関して、朱（1982）では、「現代漢語における“把”構文を構成する連述構造中、動詞は単純な単音節動詞、または二音節動詞であってはならない。少なくとも、動詞が重畳形式であること、更には、前後

③狭義の“把”構文については、蔣（1997）に『兒女英雄伝』689例、『石頭記』595例との対比がある。ここでも同様に『兒女英雄伝』における使用頻度が高い。

に何らかの成分が付帯していることが必要である。」としている。この文構造の定義を動詞の状態に基づいて分類すると、次のような種類に分けられる。

- (一) 動詞が重疊形式をとる。または、動詞の前に修飾成分としての副詞“一”がある。
- (二) 動詞が前置成分を持ち、介詞構造や一般の副詞など状況語の修飾を受ける。
- (三) 動詞が後置成分を持ち、目的語、補語、助詞などを付帯する。

5. 『儿女英雄伝』における“把”構文の分類

『儿女英雄伝』における“把”構文を構文中の主要動詞の構造から分類すると、主に次のような形式に分けることが出来る。

- a. “把”構文の動詞が前置後置成分を取らない単独の形。 (单个动词)
- b. 動詞の前に、状況語の修飾をとる形。 (状语+动词) 例：“把门很快开”
- c. 重疊の形式をとる場合。 (包括“一+动词”形式) 例：“把手一拉”
- d. 動詞の後ろに、目的語をとる場合。 (动宾结构：“把N V了N”等)
例：“把橘子剥了皮”、“把门打开一半”
- e. 動詞の後ろに、補語をとる場合。 (动补结构：方向、結果、程度補語 (V C・V得C)) 例：“开得大大”
- f. 動詞の後ろに、アスペクト助詞をとる場合。 (动词+“了”・“着”・“过”)
- g. 動詞がない場合。 (没有动词的“把”字句)
- h. 使役動詞と併用する場合。 (使役动词套用)
- i. 連動文を構成する場合。 (连动)
- j. 兼語文を構成する場合。 (兼语)

項目a並びにgは、現代漢語の普通話では、存在しない形式である。これらの現代語との差異については、歴史的変化、講談という資料の特殊性など、様々な要因が考えられるが、これらの問題については、別の機会に述べる。本編では、まず、現代漢語との対比を行うため、現代漢語との対比が可能な『儿女英雄伝』中の“把”構文の中から、最も動詞に付帯成分の少ない「c. 動詞が重疊の形式をとる場合」について分析をすすめる。

6. “一” + 動詞・動詞重疊形式

6.1 “一V”形式

(一) “把” + O1 + “一V”

以下、形式や音節の分類ごとにその例文を挙げる。

(1) 目的語が体の一部や具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語には、受事（受動者）としての働きのほかに、動作を実行する当事者自体の働きを持つものもある。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は69例ある。以下にその一部を挙げる。

拳起双拳，先在他面门前一晃，这叫作“开门见山”，却是个着儿。破这个架式，是用右胳膊横着一搪，封着面门，顺着用右手往下一抹，拿任他的手腕子，一拧，将他身子拧转过来，却用右手从他脖子右边反播将去，把下巴一掐，叫作“黄莺搦膝”。(6)④（あごを押さえつける）

他自觉身子往前一扑，赶紧的拿了拿桩站住。只这拿桩的这个当儿，那女子就把身子一扭，甩开左脚，一回身，啞的一声，正踢在那和尚右肋上。(6)（体をねじる）

那和尚见两棍打他不着，大吼一声，双手攢劲，轮开了棍，便取他中路，向左肋打来。那女子这番不闪了，他把柳腰一摆，平身向右一折，那棍便擦着左肋奔了肋下去；他却扬起左胳膊，从那棍的上面向外一绰，往里一裹，早把棍绰在手里。和尚见他的兵器被人吃住了，咬着牙，撒着腰，往后一拽。(6)（腰を振る）

“‘守着钱粮儿过’哦！你又走罗！”那穿红的女子听了，拔下那把刀来，用刀背把他的胳膊一拦，向那母女二人道：“娘儿两个只顾走。”那母女见了也有些害怕，只得就走。(7)（腕を遮る）

才一下炕，又朝着那位姑娘跪下了。那姑娘大马金刀的坐在上面，把眉一皱，说：“你怎么这么俗啊，起来！”(8)（眉をしかめる）

十三妹道：“你听我说，我父亲曾任副将，只因遇着了个对头，——这对头是个天大地大的无大不大的一个大脚色，正是我父亲的上司。”说到这里咽住，把脸一红，又说道：“却又因我身上的事，得罪了那厮。他就寻个缝子，参了一本，将我父亲革职拿问，下在监里。(8)（顔を赤らめる）

那老婆儿也在一旁说：“噯！真话的！”十三妹把手一摆，说：“老人家，快休如此说。要说你两家性命不是我十三妹救的，这话也是欺人。”(8)（手を振る）

这事断断不能从命！“十三妹听了，登时把两道蛾眉一竖，说：“不信你就讲的这等决裂！狠好，你既不能从命，我也不敢承情，算我年轻好事，冒失糊涂。(9)（二本の美しい眉を吊り上げる）

(b) 二音節動詞

このタイプの二音節動詞は1例しか見られない。以下に例を挙げる。

这山里等闲无人行走，那夜猫子白日里又不出窝，忽然听得人声，只道有人掏他的崽儿来了，便横冲了出来，一翅膀正搯在那骡子的眼睛上。那骡子护疼，把脑袋一拨甩，就把骑着的人掀下来，连那脖子底下拴的铃铛也甩掉了，落在地下。(5)（頭を方向を変えて、振り落とす）

④（ ）内は、例文出典の『儿女英雄伝』の章回回数を示す。使用テキストは、『儿女英雄伝』1989年齐鲁書社版である。

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は、受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

(a) 単音節動詞

このタイプの単音節動詞は5例ある。以下にその例を挙げる。

这年正逢会试大比之年。新年下，安老爷、安太太把家中年事一过，便带了公子进城。（新年になって、安夫妻は、新年の行事を済ませると、早々に若様をつれて、城内へ行きました。）(1) 偏看了看收礼的帐，轻重不等，大家都格外有些尽心，独安老爷只有寿屏上一个空名字，他已是十分的着恼；又见这安老爷的才情见识远出自己之上，可就用着他当日说的那个“拿他一拿”的主意了。想着如此把他一调，既压一压外边的口舌，他果然经历伏汛，保得无事，（この人事なら何かと周りから取り沙汰されるはずはない。）(2)

其余的尸身，讲不起费些事，刨个坑儿，把他们一埋，眼前都是太老爷的牙爪，谁敢不遵？便是那地保，他地面上消弥了这等一个大案，也省得许多的拖累花销，他还有甚么不愿意的？(11) 谁想这位十三妹姑娘，力大于身，还心细如发。沉下心去，把前后的话一想，第一句他就想到：方才这安官长的话里，讲到我当日遣人送我父亲灵柩一节，这话我记得曾在能仁寺向他家公子合张家妹子说过个大概，算他父子翁媳见面谈到罢了；(19)

姑娘回头叫了张太太两声，只听他那里酣吼如雷，睡得更沉。自己便披上衣裳坐起来，把梦中的事前后一想，说：“我自来不信这些算命找卦圆梦相面的事，今夜这梦作的却有些古怪！分明是我父母，怎的不肯认我？”(22)

(b) 二音節動詞

このタイプの二音節動詞は1例しか見られない。以下にその例を挙げる。

那尹先生站起来，故作惊讶问道：“此位何人？”一面留神上下把姑娘一打量，只见虽然出落得花容月貌，好一似野鹤闲云，那小时节的面庞儿还仿佛认得出来，一眼就早看见了他左右鬓角边必正的那两点朱砂痣。(17)

(二) “把” + O1 + 状況語 + “一V”

(1) 目的語が体の一部や具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語には受事（受動者）としての働きのほかに、動作を実行する当事者自体の働きを持つものもある。

(a) 単音節動詞

このタイプの単音節動詞は24例ある。以下にその一部を挙げる。

那女子更不答言，他先挽了挽袖子，把那佛青粗布衫子的衿子往一旁一缠，两只小脚儿往两下里一分，拿着桩儿，挺着腰板儿，身北面南，用两只手靠定了那石头，（群青色のシャツのあわせを片側へ巻いて挟み込み）(4)

往后，料想一时倒退不及。他便起了个贼智，把身子往下一蹲，心里想着且躲开了颈嗓咽喉，让那白光儿从头顶上扑空了过去，然后腾出身子来再作道理。谁想他的身子蹲得快，那白光儿来得更快，噗的一声，一个铁弹子正着在左眼上。(6) (体を下にかがめて)

和尚“哼”了一声，才待还手，那女子收回左脚，把脚跟向地下一碾，轮起右腿甩了一个“旋风脚”，吧，那和尚左太阳上早着了一脚，站脚不住，咕咚向后便倒。这一着叫作“连环进步鸳鸯拐”，是这姑娘的一桩看家的本领，真实的艺业！(6) (女は左足を戻し、左足の踵を軸にくるり一旋右足をつむじ風のように飛ばして)

二位老人家，你的神灵不远，慢走一步，待你女儿赶来，合你同享那逍遥快乐也！说着，把左手向身后一绰，便要绰起那把刀来，就想往项下一横，拚这副月貌花容，作一团珠沉玉碎！这正是：为防浊水污莲叶，先取钢刀断藕丝。(18) (左手を体の後ろのほうへ指し回した)

又把身子望两旁一闪，向公子道：“老贤侄，接过去。”公子便朝上双手接来，捧着安在东边那张小桌上。(24) (身を脇へかわして)

只见姑娘把眼皮儿往上一闪，冰冷的一副面孔，问道：“怎么样？”只这第一句，这亲就不像个说的成的样子。(25) (顔を上へ引きつらせて)

公子被他磨的干转，只得自己劝自己说：“这自然也是新娘子的娇羞故态，我不换他过来，他怎好自己走上床去？”一面想着，便走到姑娘跟前，搀住姑娘的手腕子，嘴里才说得个“姐姐请睡，不要作难”，一句没说完，姑娘只把腕子轻轻儿的往怀里一带，公子早立脚不稳，一个扑虎儿往前一扑，险些就要磕在那铜盆架上咧！(28) (手を懐へそっと引き寄せる)

又把手往衣襟底下一绰，摸着裤带上那个钱褡裢儿，掏出一把钱来要给那个人。(34) (手を衣服の前のおくみの下のほうへ差し回し)

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

(a) 単音節動詞

このタイプの単音節動詞は2例ある。以下にその例を挙げる。

褚大娘子道：“我却有个见识在此。”因望着他父亲合安老爷悄悄儿的道：“我想莫如把他如此这般的一办，岂不更完成一段美事？”邓九公说：“好哇，好哇！”(16)

因说道：“亲家妈，怎么样罢。”张亲家太太把嘴向安太太一努，说道：“那是他家的人，我当不了他的家！”(32)

(b) 二音節動詞

このタイプの二音節動詞は3例ある。以下にその一部を挙げる。

安公子拱了拱手，道：“借问一声：有位安太老爷家眷的公馆在那条街上？”那掌柜的听了，把安公子上下一打量，问道：“客人，你问的可是那承办高家堰堤工冤枉被参的安太老爷的家眷么？”安公子点头道：“正是。”(11)

十三妹听了一怔，重复把安老爷上下一打量，又看了看邓九公、褚大娘子，只得站起身来，向安老爷福了一福，道：“原来便是安官长！方才民女不知，多多唐突，望官长恕民女的冒昧！”(19) 只见庄门大开，门外歇得车马成群，门里也是不断的人来人往，那两边树底下还歇着许多赶趁卖吃食的。一时，老爷到了庄门首，下了驴儿，只见一个穿靴戴帽的庄客过来，把老爷上下一打量，见老爷戴着顶草帽儿，骑着头驴儿，却又穿着身行衣，不像个来作贺的样子，便上前问道：“咱们是那儿来的呀？”(39)

6.2 “V—V”形式

(一) “把” + O1 + “V—V”

(1) 目的語が具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持つ。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は2例ある。以下にその例を挙げる。

“讲到姐姐的八字儿，从姐姐噤啦的一声，我公公、婆婆就知道，不用再向你家要庚帖去。姐姐要说不放心，此时必得把俩八字儿合一合，——实告诉姐姐，我家合了还不算外，连你家也早已合过了。”何玉凤道：“今日你怎的清醒白醒说的都是些梦话？”(26)

那锅儿里的烟灰墩的干净也是这一墩，墩不干净也是这一墩；假如墩不干净，回来再装，那锅儿里的烟灰可就絮在生烟底下了。越絮越厚，莫讲辰年到卯年，便一直到他“盖棺论定”，也休想他把那烟袋锅儿挖一挖。(37)

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は1例しか見られない。以下にその例を挙げる。

只怕那程老夫子见你是个成人之学，也就不肯照小学生一般教你背诵，将来用着他时，就未免自己信不及。古人‘三余’读书，趁眼前这残冬长夜，正好把书理一理，再动手作文章不迟。读的文章，有我给你选的那三十篇启、祯，二十篇近科闾墨，简炼揣摩，足够了，不必贪多。(33)

(二) “把” + O1 + 状況語 + “V—V”

(1) 目的語が体の一部や具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語には受事（受動者）としての働きのほかに、動作を実行する当事者自体の働きを持つものもある。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は2例ある。以下にその例を挙げる。

那瘦和尚见那女子的双拳到来，就照式样一插，不想他把拳头虚幌一幌，趑回身去就走。那瘦子哈哈大笑，说：“原来是个顽女筋斗的，不怎么样！”(6) (拳で目をくらませ)

女子见这般人浑头浑脑，都是些力巴，心里想道：“这倒不好合他交手，且打倒两个再说！”他就把刀尖虚按一按，托地一跳，跳上房去，揭了两片瓦，朝下打来。(6)

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

(a) 単音節

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

このタイプの単音節動詞は1例しか見られない。以下にその例を挙げる。

我想，如今他不是没忙着要走的这一说了吗？我要把他老太太的事重新风风光光的给他办一办，也算我们师徒一场。只是要老弟你多住几日，包些车脚盘缠。(20)

6.3 “V了一V”形式

(一) “把” + O1 + “V了一V”

(1) 目的語が体の一部や具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語には受事（受動者）としての働きのほかに、動作を実行する当事者自体の働きを持つものもある。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は4例ある。以下にその例を挙げる。

“慢讲‘上山捉虎，下海擒龙’，就便‘赴汤蹈火，碎骨粉身’，我安龙媒此时都敢替你去作！”那十三妹把眼一皮儿挑了一挑，说道：（臉を吊り上げて言った）(9)

只见他沉着脸，垂着眼皮儿，闭着嘴，从鼻子里‘呖’了一声，把身子挪了一挪，歪着头儿向何小姐道：“听得进去便怎么样，听不进去便怎么样？我倒请问其目！”(30)

公子道：“既如此，‘姑妄言之妄听之’罢罢。”何小姐见公子定要他说出个道理来，趁这机会便把坐儿挪了一挪，侧过身子来斜签着坐好了，望着公子说道：“既承清问，这话却也小小的有个道理在里头，你若不嫌絮烦，容我合你细讲。你方才合妹子说的：‘对着美人，赏此名花，若无旨酒，岂不辜负了良辰美景？’”(30)

这个原故，只在这《儿女英雄传》安老爷中进士的时候已经交代过了，此时不须再赘。当下只见那位大主考归坐后，把前五魁卷挪了一挪，(35)

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は1例しか見られない。以下にその例を挙げる。

那判官稟道：“此人《善薄》堆积如山，《恶薄》并无一字。”阎王只把他那《善薄》的事由看了一看，说道：“这人功德非凡，我这里不敢发落，只好报知值日功曹，启奏天庭，请玉帝定夺。”(24)

(二) “把” + O1 + 状況語 + “V了一V”

(1) 目的語が体の一部や具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語には受事（受動者）としての働きのほかに、動作を実行する当事者自体の働きを持つものもある。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は6例ある。以下にその例を挙げる。

只一扯扯开，把大衿向后又掖了一掖，露出那个白嫩嫩的胸脯儿来。他便向铜旋子里拿起那把尖刀，右手四指拢定了刀靶，大拇指按住了刀子的掩心，先把右胳膊往后一掣，竖起左手大指来，按了按公子的心窝儿。(5)

和尚见他的兵器被人吃住了，咬着牙，撒着腰，往后一拽。那女子便把棍略松了一松，和尚险些儿不曾坐个倒蹲儿，连忙的插住两脚，挺起腰来往前一挣。(6)

原来随缘儿媳妇说那花儿收在镜匣里的时候，却是睡得糊里糊涂接下语儿说梦话。他说过这句，把脑袋往被窝里偎了一偎，又着了。及至姑娘后来长篇大论的自言自语，恰好他醒了，听了听，姑娘说的都是自己的心事。(22)

只羞得他那张老脸紫里透红，红里透紫，两眼圆睁，满头大汗，把帽子往上推了一推，两只手不住的往下掬汗。及至听安老爷接上话了，料着安老爷定有几句吃紧的话问得住姑娘，不想安老爷不过合他闹了会子“之乎者也”，倒背了有大半本《列女传》，渐渐的话有些钉不住。(25)

只听他“扎蹦蹦，扎蹦蹦，扎蹦蹦扎蹦蹦”打着，在那里等着攒钱。忽见安老爷进来坐下，他又把头上那个道笠儿望下遮了一遮，便按住鼓板，发科道：锦样年华水样过，轮蹄风雨暗消磨；仓皇一枕黄梁梦，都付人间春梦婆。(38)

那瑟庵便翻着双白眼说道：“不敢欺，你可知夫子喟然而叹道那句‘吾与点也’，正赏识得是他那些儿没干头处。”坐中那个冉望华是个退让不遑的人，见他两个争竞起来了，慌得把身子望后偎了一偎，望着那个复姓公西的说道：“小端，你看今日这等个礼乐雍容之地，他二位倒一言不合斗起口来，区区止不过志在温饱，自问是断断周旋不来的，这事只得要借重你这位大君子了。”(39)

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は1例しか見られない。以下にその例を挙げる。

张金凤道：“这样罢”，他便恭恭敬敬深深的向那神主福了两福，祝告道：“叔父、婶母，只得惊动你二位老人家了，请你二位老人家向前升一升儿，自己吩咐我姐姐一句，想来他就没的说了。”说着，他便把那两座神主都往龛外请了一请。姑娘一看，可了不得了！（26）

6. 4 “V了V”形式

(一) “把”+O1+“V了V”

(1) 目的語が具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持つ。

(a) 単音節動詞

このタイプの単音節動詞は2例ある。以下にその例を挙げる。

谁想那女子放下石头，把手上身上的土拍了拍，拌了拌，一回身，就在靠桌儿的那张椅子上坐下了。安公子一见，心里说：“这可怎么好？”（4）

他见了这穿月白的女子这等的贞烈，心里越加敬爱，说：“这才不枉长的合我一个模样儿呢！”随即向后退了一步，把脸上的唾沫星子擦了擦，笑着叹了一口气，道：“姑娘，你受这等的委屈，自然该息怒交加，我不怪你。只是我要请教：难道只这等啼哭叫骂会子，就没事了不成？”（7）

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

(b) 二音節動詞

このタイプの二音節動詞は3例ある。以下にその例を挙げる。

那女子走到跟前，把那块石头端相了端相，见有二尺多高，径圆也不过一尺来往，约莫也有个二百四五十斤重，原是一个碾粮食的碌碡。上面靠边却有个凿通了的关眼儿，想是为拴牲口，再不插根杆儿，晾晾衣裳用的。（4）

且自顾性命要紧，因此上一狠二狠，写了十十万两的报效。那乌大人就把案归着了归着，据情转奏。（13）

又把式样端正了端正，一面亲自给他带在手上，一面悄悄的向他笑道：“你瞧，团弄上就好了不是？等要放他的时候，咱们再放。（34）

6.5 “VV”形式

(一) “把” + O1 + “VV”

(1) 目的語が具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持つ。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は3例ある。以下にその例を挙げる。

“我合你公公一年的提心吊胆，到今日且喜遂心如意了！”说着，便一只手拉起他来，又叫丫头：“给你新大姐姐湿个手巾来，把粉匀匀。”褚大娘子忙一把搀了他过来，说：“先歇歇儿罢，站了这半天了。”(27)

老蓝答应一声，便端了一碗凉绿豆，一碟粽子，又见那个丫头——原名素馨，改名绿香的——从屋里端出一碟儿玫瑰卤子，一碟儿冰花糖来，都放在公子面前。公子一面吃着，舅太太又说：“吃完了，再把脸擦擦，就凉快了。”公子一时吃完，擦了脸，重新打扮起来。(37)

老爷见师老爷的烟灭了，将要叫人拿香火，恰巧那个麻花儿一时不在跟前。一回头，正看见长姐儿站在那边，安老爷是一生忠厚待人，从不晓得甚么叫作闹脾气，嫌人脏，笑人怯，便叫长姐儿道：“你过来，把师老爷的烟点点。”这一下子可要了他的命儿了！(37)

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

(a) 単音節

このタイプの単音節動詞は1例しか見られない。以下にその例を挙げる。

张金凤道：“姐姐这就为难了？等我再把我那为过的难说说。”便又告诉褚大娘子：“我这句话，只有你妹夫知道：再我不敢瞒婆婆，便是公公跟前我也不曾提过。”(26)

(二) “把” + O1 + 状況語 + VV + O2

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

(b) 二音節動詞

このタイプの二音節動詞は1例しか見られない。以下にその例を挙げる。

他倒站起来向安老爷拜了一拜，说道：“就是这么着了。只求你老人家把这话好好儿的替我付托付托我们老玉罢。我也不会花说柳说的，一句话，我就保他不撒谎、出苦力这两条儿。(40)

6. 6 “VV了”形式

(一) “把” + O1 + 状況語 + “VV了”

(b) 二音節動詞

このタイプの二音節動詞は1例しか見られない。以下にその例を挙げる。

好过的是，磨盾三年，算完了一桩大事，且得消闲几日。不好过的是，出得场来，看看谁脸上都像个中的，只疑心自己不像；回来再把自己的诗文摹拟摹拟，却也不作孙山外想，及至看了人家的，便觉得自己某处不及他出色，某句不及他警人。方寸中是顷刻楼台，顷刻灰烬，转消闲得不耐烦。(35)

7. “把”構文と重疊動詞

現代漢語との対比によって明らかになる『儿女英雄伝』中の“把”構文における重疊動詞の特徴は次のとおりである。

7. 1 現代漢語における状況

史有為(1994)には、「AA型在“把”字句里的分析(“把”構文におけるAA型の分析)」に関する研究がある。そこでは、「王、李、範、劉氏の四論文中、重疊形式が計500例余りあるが、そのうち“把”構文はわずか20例しか含まれておらず、大多数はAA型ではない」と指摘している。そこでの内訳は、A一A型4例、A了A型3例、A了一A型又はA了XA型(Xは両、三、五、六等任意の数字)、AA型は7例となっており、その分析結果は次のようなものである。

- 1) AA型の重疊形式を“把”構文に用いることは、使用頻度が低く、優勢な表現とはいえない。北京人への聞き取り調査結果でも同様の結果が証明された。
- 2) 単音節動詞と二音節動詞のAA型は等価ではなく、後者の方が“把”字句には適合性が高い。前者が通常“把”字句に現れることは少ない。現れる場合は、AA型の後ろに結果を表すフレーズが来るか、AA型の前にある種の成分が加わりフレーズが長くなっているという特徴がある。
- 3) AA型が“把”字句の中で単独で現れる場合、ある種の規則性や類推が可能な一面(何かの結果を含意したり、祈使句である場合)と、習慣性に拠ったり類推不可能な一面があり、不確定な一種の柔軟性、いわゆるグレーゾーンの間接地帯にあるといえる。そのため、全ての規則を明確に表現するのは困難である。
- 4) 単音節動詞のA一A型、A了A型の使用頻度が表すものとしては、単音節動詞のAA型

の方が前二者に比べ“把”構文になじみやすいということである。(A了A型は更に“把”構文になじみくい)

7. 2 『児女英雄伝』における状況

『児女英雄伝』の“把”構文中に現れる重疊形式は、次の6種類であり、動詞の音節別の用例数はそれぞれ下記に示すとおりである。

	“一V”	“V—V”	“V了—V”	“V了V”、	“VV”	“VV了”
単音節A	100例	6例	12例	2例	4例	0例
二音節AB	5例	0例	0例	3例	1例	1例
計	105例	6例	12例	5例	5例	1例

ここで、史(1994)の指摘する内容と『児女英雄伝』の状況を比較してみる。

『児女英雄伝』全体に現れる単音節動詞のAA型重疊形式は485例、二音節動詞のABAB型は131例^⑤である。

そのうち“把”構文中に出現するAA型(VV形式)は5例、ABAB型は1例である。つまり、『児女英雄伝』中のAA型についても“把”構文中において優勢な用法とは言えず、使用頻度も低い。

史氏によれば、単音動詞と二音動詞のAA型は不等価である。二音動詞の方が“把”字句に適しており、単音動詞は常に“把”字句の中に出現するわけではなく、上記(7.3(2))で述べたようなある種の条件がある。『児女英雄伝』の用例は、基本的には祈使句にみられ、単音節動詞のAA型には、後続するフレーズはない。二音節動詞のABAB型は、直後に間接目的語を取っている。出現数からみれば、『児女英雄伝』中では、“VV”の5例中、4例が単音節動詞、1例が二音節動詞であり、単音節動詞の用例の方が優勢である。

更に、単音節動詞のA—A型、A了A型はAA型に比べて“把”字句に適合し、A了A型は“把”構文になじみくいという史氏の解説からは、A—A型、A了A型>AA型>A了—A型という優先順位が成立する。しかし、『児女英雄伝』の状況は異なっており、単音節動詞A了—A型12例>A—A型6例>AA型4例>A了A型2例の順となる。

これらの形式の“把”構文中の出現数と各重疊形式の総体的な出現数の比率は、次の通りである。単音節動詞A了—A型11/50^⑥(22%)、A—A7/40(17.5%)、AA型4/485(0.8%)、A了A型2/242(0.8%)となり、各重疊形式の中における“把”構文の占める割合と“把”構文中の重疊形式の各出現実数の高低は一致している。

⑤ 藤田(2002) (276-287頁)

⑥ (“把”構文中の出現数/各重疊形式の総出現数)によって、各重疊形式に出現する“把”構文の占める割合を計算している。

7. 3 形式と音節

『兒女英雄伝』の“把”構文c類の中で、“一V”はもっとも多く見られる用例である。全部で105例（状況語の修飾を受けるものを含む。そのうち、5例は二音節動詞である。）意味は“忽然、動作很快、一下子”等の一般的な描写である。このほか、“一”+Vから派生したいくつかの重畳形式が見られる。例えば、“V一V”（6例）、“V了一V”（12例）、“V了V”（5例、そのうち3例が二音節）、“VV”（5例、そのうち1例が二音節）、“VV了”（1例）などがある。

また、“V一V”、“V了一V”などの“一V”形式を含む重畳形式には、単音節動詞の用例のみで、二音節動詞の用法は見られない“一V”形式自体も大多数は単音節動詞による用例であるが“一打量”、“一拔甩”のみ二音節の用例が例外的に見られる。“V了V”、“VV”形式には、単音節、二音節動詞の用例が共に見られる。

現代の普通話では、二音節動詞の重畳形式の使用範囲は、『兒女英雄伝』よりも狭い。『兒女英雄伝』中に見られた状況について整理すると、次のとおりである。

（一）“一”+二音節動詞

“把”構文中の目的語は全て人物で、動詞は“打量”、“拔甩”のみであるが、計5例のうち、4例は“打量”である。これらはいずれも、“把”+人物+（状況語）+“一”+“打量”という、状況語まで同様の文体において使用されているという特徴がある。（例文は前述。）

（二）二音節動詞+“了”+二音節動詞

現代漢語では、二音節動詞が“V了V”形式を作ることはきわめて少ない。『兒女英雄伝』では、“端相了端相”、“端正了端正”、“归着了归着”などの用例が見られた。

（三）“把”+O1+状況語+二音節動詞重畳+O2

“托付托付”1例のみ。

現代漢語中でAB形式動詞を用い、同様の意味を表現する場合は、多く“AB一下”形式を用いる。

（四）状況語+二音節動詞重畳+“了”

“摹拟摹拟”1例のみ。

現代漢語中でAB形式動詞を用い同様の意味を表現する場合は、同じく“AB一下”形式を用いる。

7. 4 修飾語との関係

『兒女英雄伝』の“把”構文c類において、“V了V”を除く全ての形式で、状況語の修飾を受ける用例がみられる。

7. 5 動詞と目的語の関係

『兒女英雄伝』の重疊形式を伴う“把”構文中の目的語には、次の(1)(2)のような二つの種類が見られた。文の表面的な構造は全く同じであるが、目的語と動詞との関係において、下記に述べるような差異を含んでいる。

(1) 目的語が体の一部や具体的な事物を指すもの

“把”構文中、“把”の後に来る目的語には受事（受動者）としての働きのほかに、動作を実行する当事者自体の働きを持つ。

(2) 目的語が抽象的な動作の対象

“把”構文中、“把”の後に来る目的語は受事（受動者）としての働きを持ち、抽象的な動作の対象を表す。

更に、動詞と目的語の関係に基づいて構造を分析すると、“把”構文：“把” + N + V という基本構造のNとVの相互関係は、以下の三種類に分類することが出来る。

①Nが“受事”（=受動者）の場合： $N \leftarrow V$

②Nが“当事”（=当事者）・施事（動作主）の場合： $N \rightarrow V$

③Nが“受事”（=受動者）にも
Nが“当事”（=当事者）・施事（動作主）にも両方に解釈できる場合： $\begin{cases} N \leftarrow V \\ N \rightarrow V \end{cases}$

これらを“把”構文以外の平叙文に置き換えてみるとその違いは明らかである。

①Nが“受事”（=受動者）の場合： $N \leftarrow V$

例：“把下巴一掐”……“把” + N + V

= “一掐下巴”……VO

* “下巴一掐”……SV

②Nが“当事”（=当事者）・施事（動作主）の場合： $N \rightarrow V$

例：“把脸一红”……“把” + N + V

* “一红脸”……VO

= “脸一红”……SV

③Nが“受事”（=受動者）にも： $N \leftarrow V$

Nが“当事”（=当事者）・施事（動作主）にも両方に解釈できる場合： $N \rightarrow V$

例：“把脑袋一歪”・・・・・・“把” + N + V
= “一歪脑袋”・・・・・・VO
= “脑袋一歪”・・・・・・SV

②、③類のようにNが当事者になりうる場合とは、目的語の大部分は身体の一部であり、動詞も体自体から発せられた動作である。

『儿女英雄伝』の重畳形式を伴う“把”構文中の目的語には、身体の一部の瞬発的な動きを表すものが多く、③のように“把”構文中の目的語が受動者とも、動作主とも分析できる例が多く見られる。

参考文献

- 蔣紹愚（1994）『近代漢語研究概況』 北京大学出版社
（1997）「把字句略論—兼論功能擴展」 『中国語文』第4期 中国社会科学出版社
史有為（1994）「動詞重疊及其句法功能」 『中国語研究論集2』 大東文化大学語学教育研究所
王力（1944）『中国語法理論』 商務印書館
張美蘭（2001）『近代漢語語言研究』 天津教育出版社
朱德熙（1982）『語法講義』 商務印書館
藤田益子（2002）「《儿女英雄傳》中的動詞重疊形式」 『紀念王力先生百年誕辰學術論文集』 商務印書館